

高校・特別支援学校

「人をそだてる 心をそだてる」合言葉に

福祉分野のスペシャリスト育成

埼玉県立誠和福祉高校

「人をそだてる 心をそだてる」を合言葉に福祉分野のスペシャリストの育成を目指す埼玉県立誠和福祉高校。利根川典子校長、生徒482人。前身の時代を含めて創立50周年を迎えた同校は、地域からの期待が厚く、福祉やボランティア活動などで交流を深める他、福祉科の介護福祉コースの生徒の多くが介護福祉士の資格を取得する、就職希望者の就職率が100%といった特徴がある。同校の教育活動については民生・児童委員からの関心も高く、視察依頼が定期的にあるという。

同校は県内で唯一、福祉や技能の習得を目標に掲げる生徒も多い。科を置く専門高校で、併設の総合学科でも福祉や看護、保育などの系列を設けている。目指す学校像は、福祉やボランティアなど人との関わりを大切にする教育活動を通して、「人間性を磨き、地域や社会を支える力と心をもった生徒を育成すること」。

分掌組織に「ボランティアセンター」

地域と生徒の懸け橋に

例年、介護に関わる職が多い。実習などを行う施設・設備は充実しており、大学や専門学校と同等のものもある。福祉関連施設のお年寄りや特別支援学校の生徒との交流も盛んで、地域福祉交流室は、バリアフリー化などの配慮がある他、保育士や幼稚園教諭を目指す生徒が使う電子ピアノは1台の配置など、福祉科は高度な専門知識

福祉の仕事の中心は専門的な知識・技能を生かしながら人と関わることである。活動時間に応じて、社会福祉基礎の単位認定もすべからボランティア活動にも力を注いできた。

分掌組織の一つに「ボランティア活動センター」を設け、地域や各福祉関連施設、部活動では、ボランティア活動では、ボランティアを担うユリカ部の他、度の依頼は約80件で、生徒コース部、吹奏楽部などは延べ300人以上が参加も年間を通して活動している。

内容が中核にあり、2年次からは福祉、看護、保育、教養の4系列に分かれる。福祉関連施設や特別支援学校、保育所など交流する機会も多い。来年度からは福祉系列で介護の基礎的な資格(生活援助従事者研修)が取得できるようになる。同校は他にも、「スペシャリストを育てるにはスペシャリストになる指導が必要」という思いから、各分野で活躍する講師を多数招き、教育内容を充実させている。講座内容は、折り紙の基本、伝統工芸、災害時の介護職の役割、コミュニケーションの技術、クリスマスなどの飾りなど多岐にわたる。



ボランティアで開く「お花見会」の様子。各部が連携して歌や演奏などを披露する。



学習意欲や自尊心が高まる。

※著作権は日本教育新聞社に帰属し、記事、画像等の無断転載をお断りします。